MS341－26005
GRフロントスポイラー［LED付き］

取付・取扱要領書

この度は GR フロントスポイラーをお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。
本書には本商品の取り付け・取り扱いについての要領と注意事項を記載してあります。
取り付け前に必ずお読みのうえ、正しい取り付け・取り扱いを実施してください。

● 本商品は登録後架装を前提としています。
● 本商品を装着後に牽引フックを使用する際は、本商品を取り外す必要があります。

■品番・適合車種

品番	適合車種	年式	備考
MS341-26005	ハイエース	'26/2 ～	

・最新の適合情報は TRD カタログサイトをご覧ください。https://www.trdparts.jp/

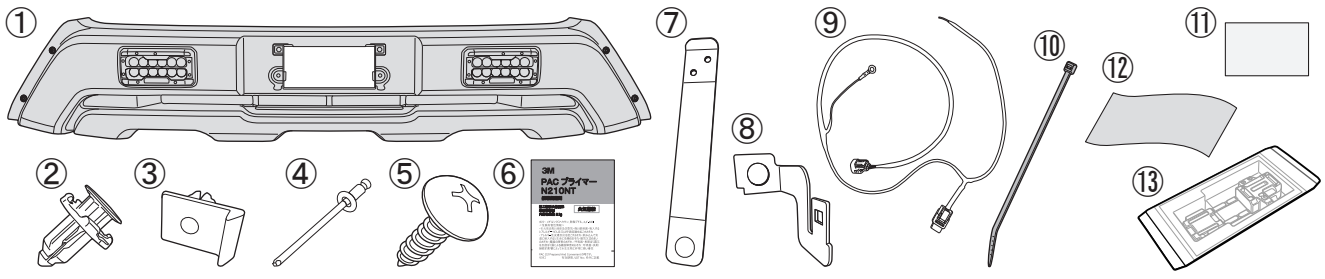
■構成部品

No.	品名	個数	備考
①	フロントスポイラー	1	LED 付き
②	クリップ	2	
③	グロメット	2	
④	リベット	4	
⑤	タッピングスクリュー	2	M6 × 16
⑥	PAC プライマー（赤袋）	1	N-210NT 相当（取扱説明書含む）※1
⑦	ブラケット A	2	黒
⑧	ブラケット B	1	
⑨	接続ハーネス（車両側）	1	
⑩	結束バンド A	9	160 mm
⑪	ブチルシート	1	
⑫	シートパッキン	1	
⑬	エレタップ	1	

※確認・本商品が到着後、すぐに本体に破損がないこと、付属品が全てそろっていることを確認してください。

※ 1. フロントバンパーが素地の場合は、別途「3M PAC プライマー K-500」を準備してください。

■構成部品図



取り付け上のご注意（取り付け作業者の方へ）

作業を行う前に必ずお読みになり、安全で確実な取り付け作業を行ってください。

⚠ 警告	この内容に従わず、誤った取り付け・取り扱いを行うと生命の危険または、重大な傷害等を負う可能性がある内容について記載しています。
⚠ 注意	注意事項を守らないで、誤った取り付け・取り扱いを行うと事故につながったり、ケガをしたり、車両を損傷する等のおそれがある事を記載しています。
アドバイス	スピーディに作業していただく上で知っておいていただきたいことを記載しています。

⃠ やってはいけないこと　　❗ 必ず行なっていただくこと

⚠ 警告

⃠ 本商品への改造・加工、及び適合車種以外への装着は、重大な事故や故障を招くおそれがありますので絶対に行わないでください。

❗ 本商品の取り付け・交換は、該当車両の修理書（トヨタ自動車㈱発行）に従い、本書の注意事項をまもり作業を行ってください。

❗ 取り付け作業は規定トルクに従って、確実に締め付けてください。締め付けが足らないと脱落などにより重大な事故や故障を招くおそれがあります。

⚠ 注意

❗ 本商品の取り付け前に、本体・構成部品がすべて揃っていること、損傷や不具合が無いことを確認してください。取り付け後に発覚した損傷や不具合のクレームには、対応できない場合があります。純正部品を再使用する場合がありますので、復元する際に間違えないよう配慮し、紛失しないように保管してください。

❗ 本商品の取り付けは、キズ付き防止のため保護シートの上で取り扱いを行ない、同時に取り付け部位を保護材にて養生をした上で作業を行ってください。取り付け作業時のキズ付きや破損に十分に注意してください。

脱脂作業について（別添の脱脂作業要領も参考にしてください）

❗ 脱脂作業を行う際は、清潔なウエスを使用して、ホワイトガソリン、イソプロピルアルコール（IPA）または「（株）タクティー取扱いのシリコンオフ」を使用して確実な脱脂を行ってください。指定以外のシリコンオフは使用しないでください。

❗ 脱脂作業にボディーコーティング等の下地処理剤や、パーツクリーナー、ブレーキクリーナーなどの溶剤は絶対に使用しないでください。正しく脱脂が出来ず浮き、剥がれの原因となります。

両面テープについて

❗ 脱脂作業を怠ると両面テープを接着しても剥がれます。

❗ 両面テープは一度貼り付けてから剥がしますと、接着力は低下しますので再貼り付けはできません。

❗ 本商品の両面テープは、環境温度が20℃以下の低温時には接着能力が著しく低下します。

❗ 両面テープの圧着は49 N（ 5 kgf ）以上（車両が軽く揺れる程度）で確実に行ってください。

⃠ 本商品の取付け後24時間は、洗車や水（水拭きを含む）・雨などが、かからないようにしてください。装着後の注意事項を守らなかった場合、製品の浮き、剥がれの原因となります。

未塗装品の塗装作業について

❗ 本商品は塗装前に下地処理が必要です、必ずサフェーサー塗装から始めてください。

❗ 本商品に塗装をする際は、両面テープを全面マスキングしてください。

❗ 乾燥させる際は製品の変形の無いよう固定してください。また、乾燥温度が高いと変形やひび割れを起こしますので70℃以下で乾燥させてください。

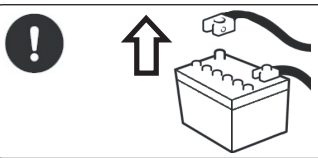
未塗装品の塗装作業について

❗ 取り付け後、本商品と車両との干渉が無いことを確認してください。

❗ 作業にバッテリーのマイナス端子を外した場合は、作業終了後にシステム設定・確認を行ってください。

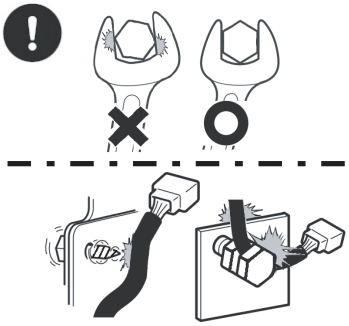
ＬＥＤデイタイムランプ配線取付け上の注意事項

- ビニールテープをご使用の際は、必ず難燃性の耐熱ビニールテープを使用してください
  推奨品：Ｖ９６５０－０４８４　（耐熱ビニールテープ・灰色）
- バッテリー復元作業後は、機能部品に初期化や調整が必要な場合があります。取付け作業後は必ず該当車両の修理書に従い、初期化・調整作業の有無をご確認ください。



取付ける前に

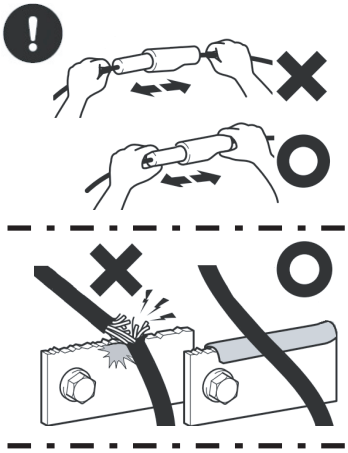
・作業前に、必ずバッテリーの⊖側ケーブルをはずす。



部品を取付ける際は

・部品サイズにあった工具を使用する。

・部品の裏側に注意して、配線の噛み込みやビスの接触、断線に十分に注意する。



配線の取りまわしは

・コネクターは必ず本体を持ってはずし、配線は引っ張らない。

・バリ・エッジ部は、ガムテープ等で保護をする。

・コネクターは「カチッ」と、音がするまで確実に接続して、配線は無理なチカラで引っ張らない。

配線のクランプは

・結束バンドは配線が動かない程度に締めて、締めすぎない。
・結束バンドの余った部分は、エッジにならないようにカットする。
・カットした端末が、ほかの配線と接触しないようにする。
・コネクターが振動により異音がしないように、確実に固定する。

⚠注意

バッテリー接続中に作業を行なう際は、エアバックセンサー等に衝撃を与えないように十分に注意して作業を行なってください。

■目次

1. 表紙、品番・適合車種、構成部品　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 取り付け上のご注意(取り付け作業者の方へ)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2～3
3. 目次、取り付けに必要な工具・保護具・消耗品、保証について、構成部品図・・・・・・・・ 4
4. 取り付け要領　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5～20
5. 取り付け完了後の点検・注意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

■取り付けに必要な工具・保護具・消耗品

・一般工具・ドリル・ホルソー・きり・加工用工具(はさみ、カッターナイフなど)・やすり・リベッター
・スケール・マーカーペン・保護メガネ・軍手・保護シート・保護テープ・ビニールテープ
・マスキングテープ・ホワイトガソリン又はイソプロピルアルコール(IPA)・清潔なウエス

■保証について

本商品は、1年・20,000km の保証を実施致します。
(1年または 20,000km 走行時点のいずれか早い方まで)
※保証の詳細はTRDパーツカタログサイト< https://www.trdparts.jp/ >
「保証について」をご覧ください。

■取付構成図/配線図

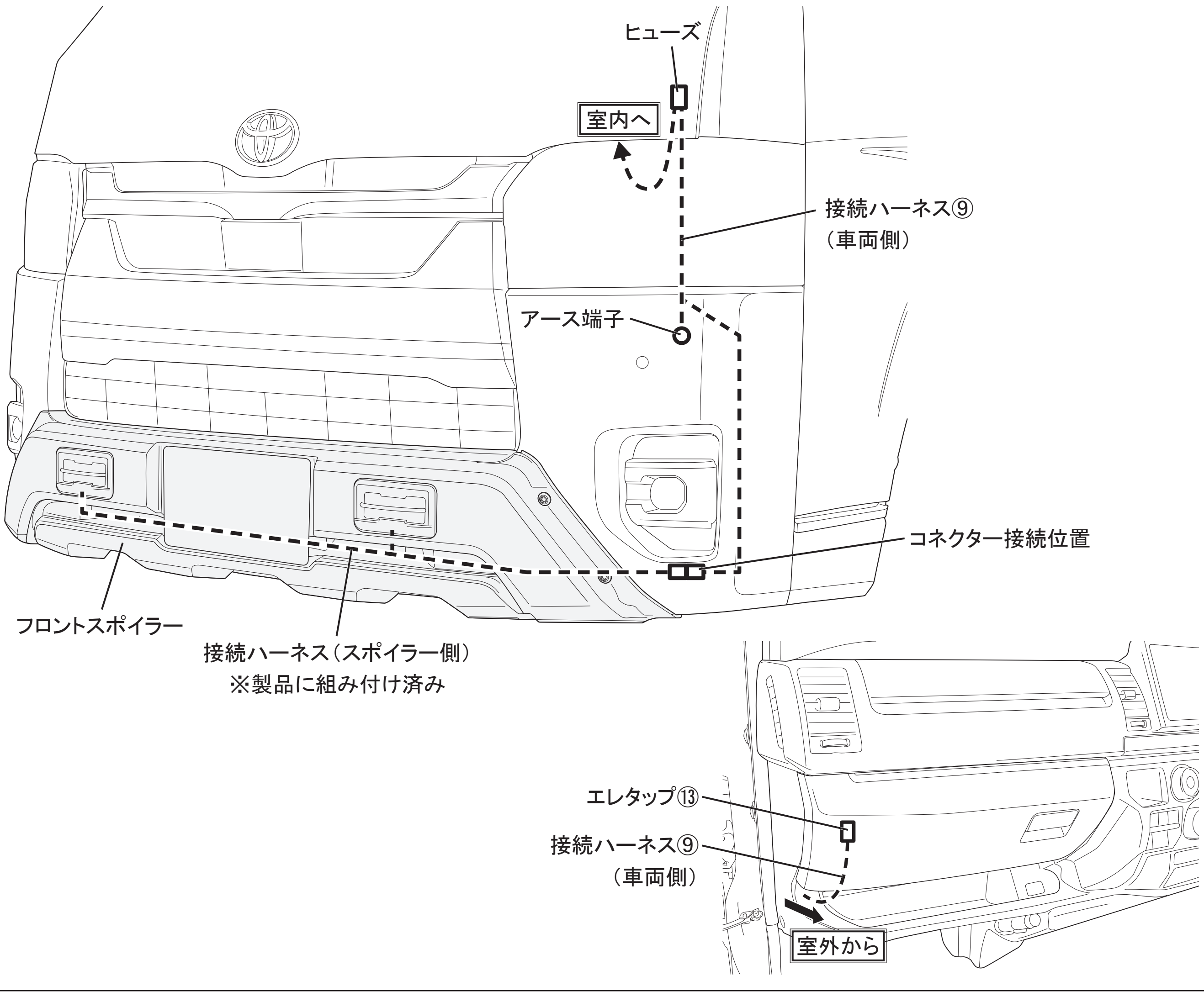
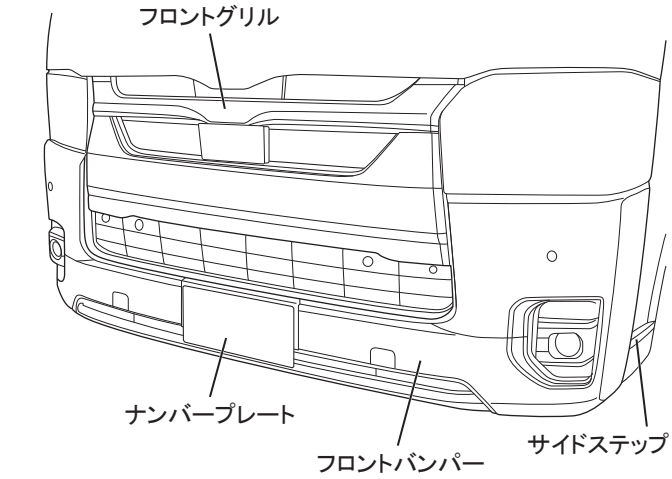
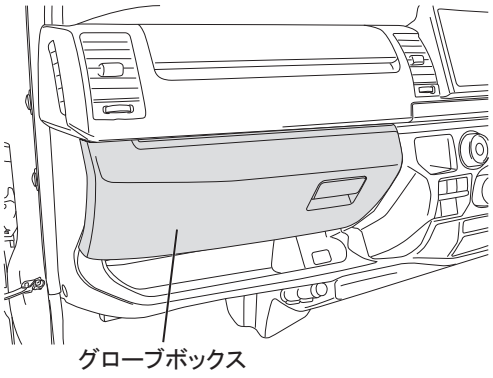


図 1





■取り付け作業は必ずバッテリーのマイナス端子を外してから行ってください。

■作業終了後は各システムの設定・動作確認を必ず行ってください。

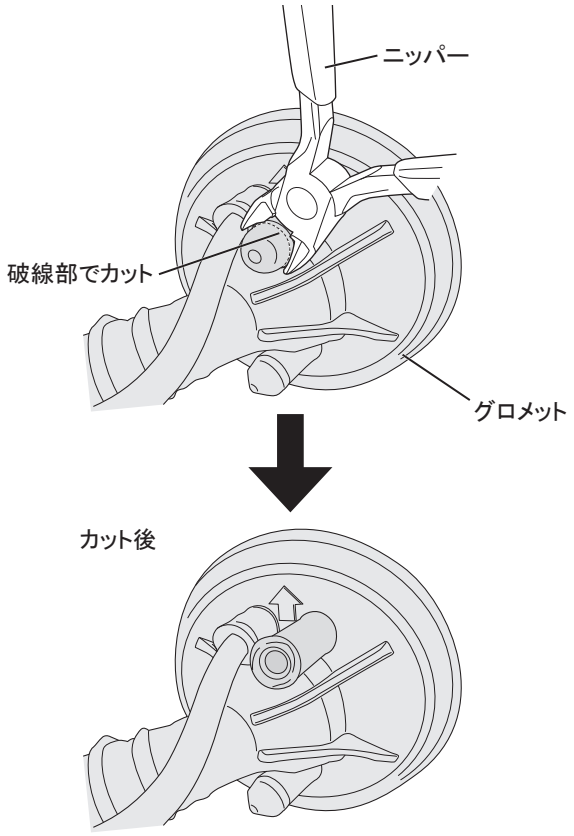
■車両修理書「バッテリーターミナル脱着時の設定／作業」を参照してください。

□接続ハーネスの取り付け

1. 車両の修理書（トヨタ自動車㈱発行）に従い、「フロントグリル」「ナンバープレート」「サイドステップ」「フロントバンパー」「グローブボックス」を取り外す。

> ⚠注意：取り外した部品は復元するため、大切に保管してください。

図 3［拡大図］



2. 左図を参考し、車両のグロメットを加工する。

［視点］

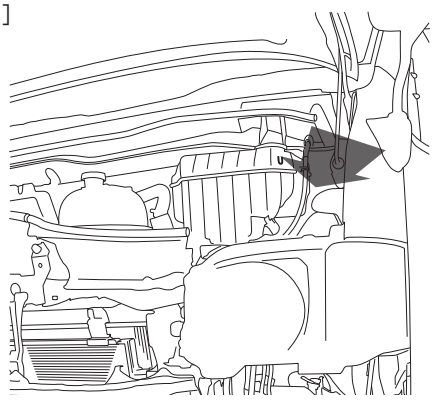


図 2［矢視図］

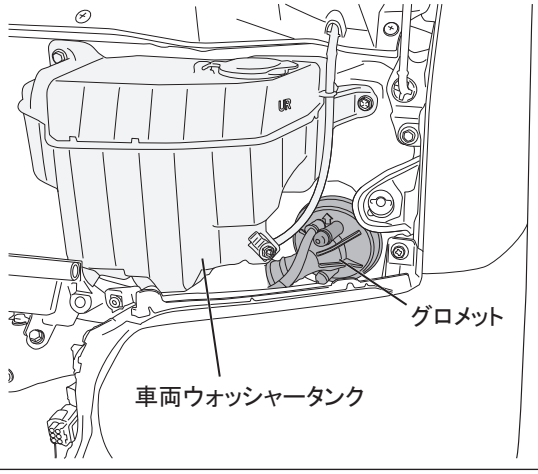
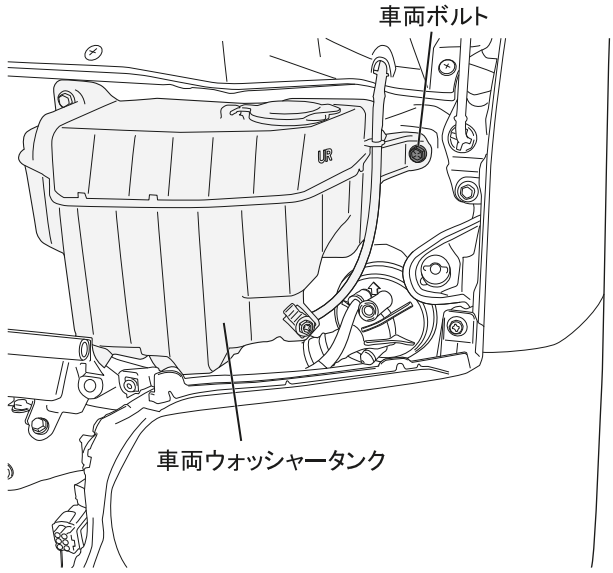
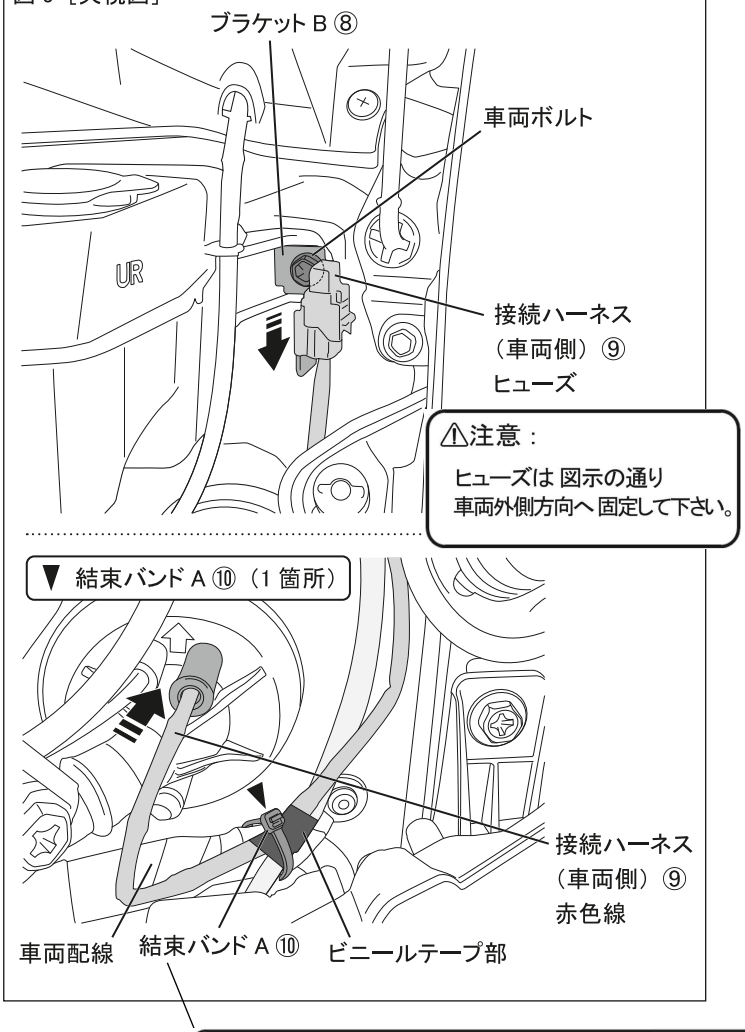


図 4



3. 左図を参照し、車両ウォッシャータンクを固定している車両ボルト（1 本）を取り外す。

図 5［矢視図］



⚠注意：車両配線と接続ハーネス(ビニールテープ部)を
結束バンドAで確実に固定して下さい。

4. ブラケット B ⑧を図の位置に配置し、車両ボルトで取り付ける。

⚠注意：ボルトの締め付けは車両修理書に従い、規定のトルクで行ってください。
締め付けトルク［ 4.9N･m ］

5. 接続ハーネス（車両側）⑨のヒューズを、ブラケット B ⑧に差し込み固定する。
6. 接続ハーネス（車両側）⑨の赤色線を、カットしたグロメットの穴から室内側に通す。
7. ▼で車両配線と接続ハーネス（車両側）⑨のビニールテープ部を結束バンド A ⑩で束ねて固定し、結束バンド A ⑩の余りをニッパーなどで切り取る（1 箇所）。

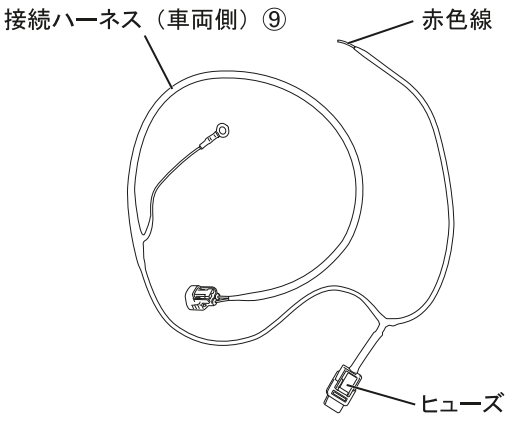
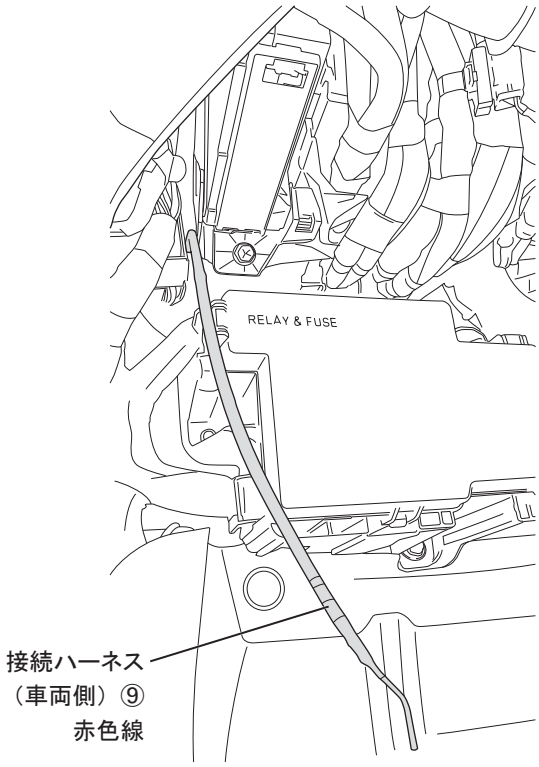
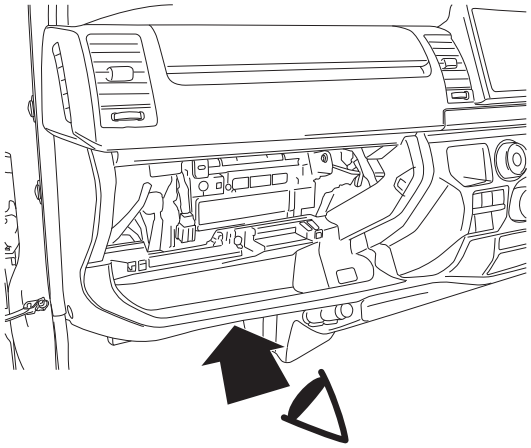


図 6［矢視図］

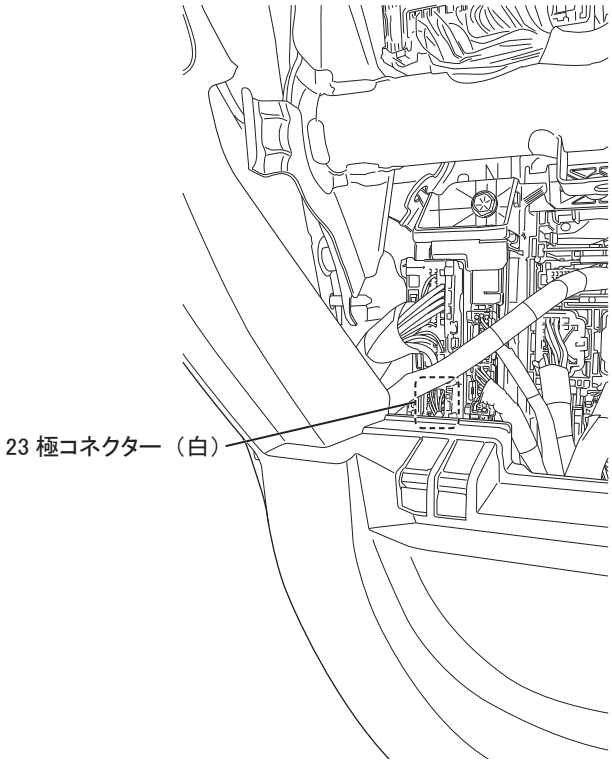


［視点］

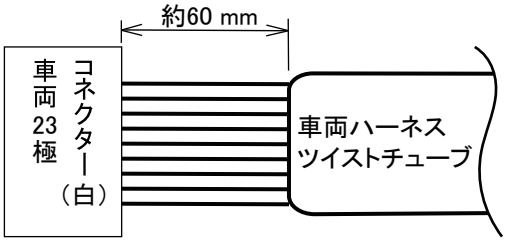


8. 室内のグローブボックス下部をのぞいて、室外側から接続ハーネス（車両側）⑨が通っていることを確認し、図のように手前へ引き込む。

図 7［グローブボックス：ウラ側］

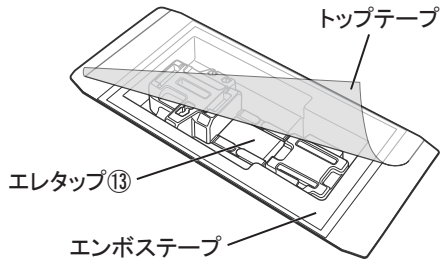


9. グローブボックス（ウラ側）のパワーディストリビュージョンボックス ASSY の中から、電源を取るために使用する 23 極コネクター（白）を確認する。
10. 保護テープを巻いた薄刃マイナスドライバーを使用してツメのかん合を外し、レバーコネクターを取り外す。
11. 取り外したコネクターの根本端部から「約 60 mm」の位置でツイストチューブに目印を付け、覆っているビニールテープとツイストチューブをカットする。



⚠注意：ビニールテープ、ツイストチューブをカットする際は、配線を切らないように注意してください。

図 8

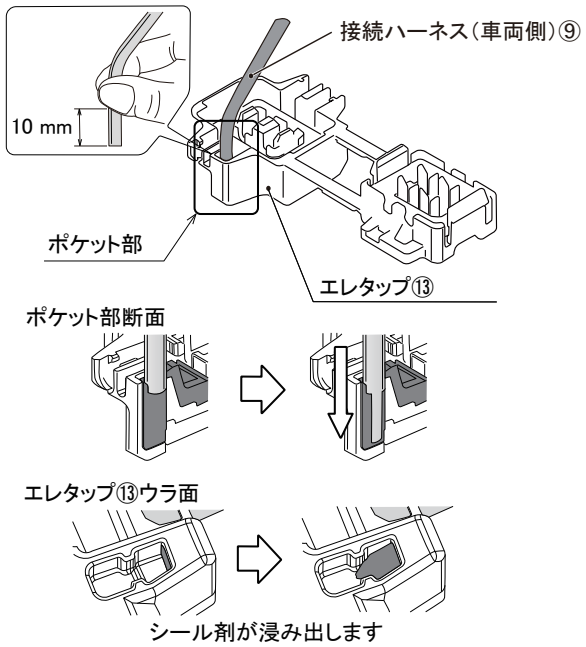


12. エレタップ⑬を取り出す。

⚠注意：エレタップ⑬の取り扱い注意事項

- 嵌合部に針金や先端が細い工具などを入れないでください。コネクターが嵌合できなくなるおそれや接触不具合の原因になります。
- シール材およびターミナルには触れないでください。
- 一度使用したエレタップは再使用しないでください。また、修正が必要な場合はコネクターを車両ハーネスに付けたまま、テープなどで絶縁処理を行ってください。

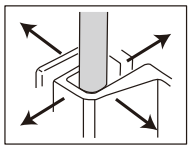
図 9



13. 図を参照し、接続ハーネス（車両側）⑨の赤色電線をポケット部に挿入する。

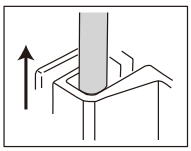
⚠注意：電線挿入後は下図のような行為を行わないでください。

×



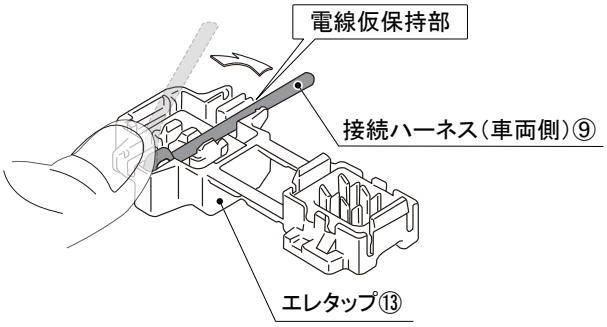
電線を前後左右に動かさないでください

×



挿入した電線を抜かないでください

図 10



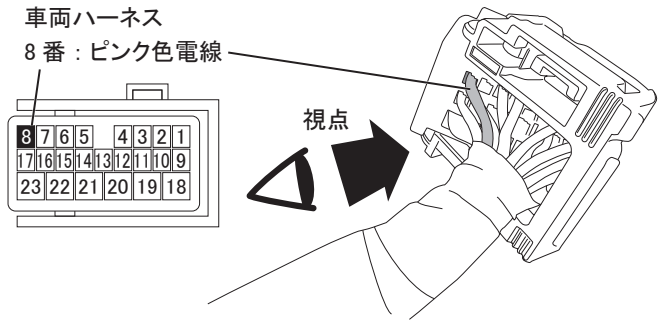
14. ポケット上部を起点に接続ハーネス（車両側）⑨の赤色配線を折り曲げ、仮保持部にはめ込む。

アドバイス

・電線仮保持部へ電線がはめ込まれると「パチッ」とクリック音が鳴ります。

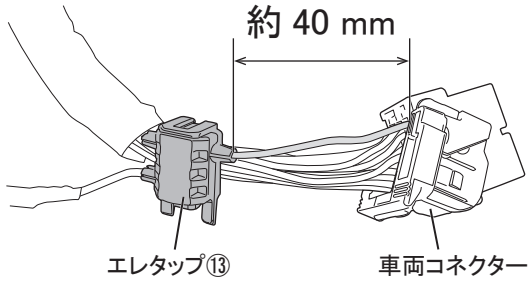


図 11



15. 接続ハーネス（車両側）⑨の赤色電線を接続するため、車両コネクターの「ピンク色電線」を確認する。

図 12



16. エレタップ⑬を車両コネクターの根本端部から「約 40 mm」の位置に合わせる。

17. 下図を参照し、ピンク色電線をもう一対のインシュレーター仮保持部に押し込み、電線を保持する。

アドバイス

・電線仮保持部へ電線がはめ込まれると「パチッ」とクリック音が鳴ります。

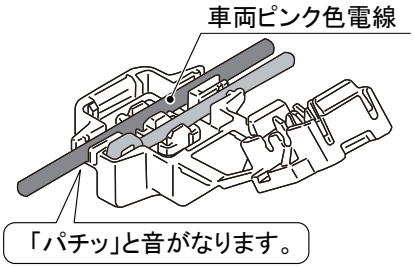
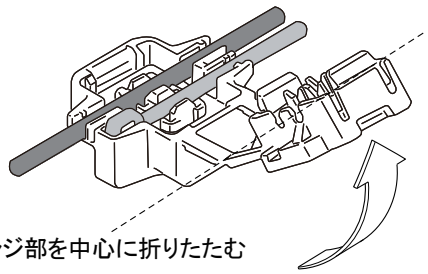
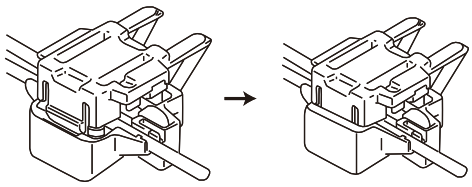
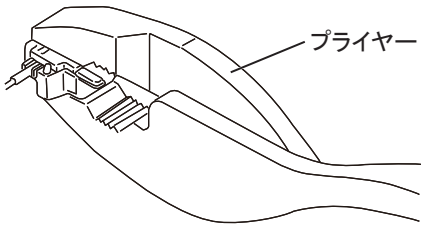


図 13



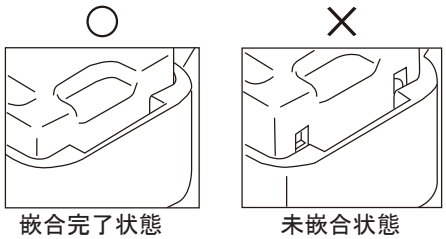




18. ヒンジ部を中心にエレタップ⑬を折りたたむ。

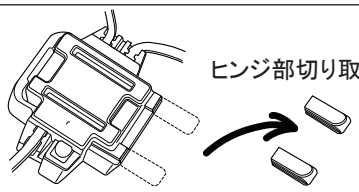
19. はめ合わせたエレタップ⑬をプライヤーの広口で挟み本留めする。

⚠注意：本留め後は必ずロック状態を確認してください。穴が隠れている状態が嵌合完了の状態です。



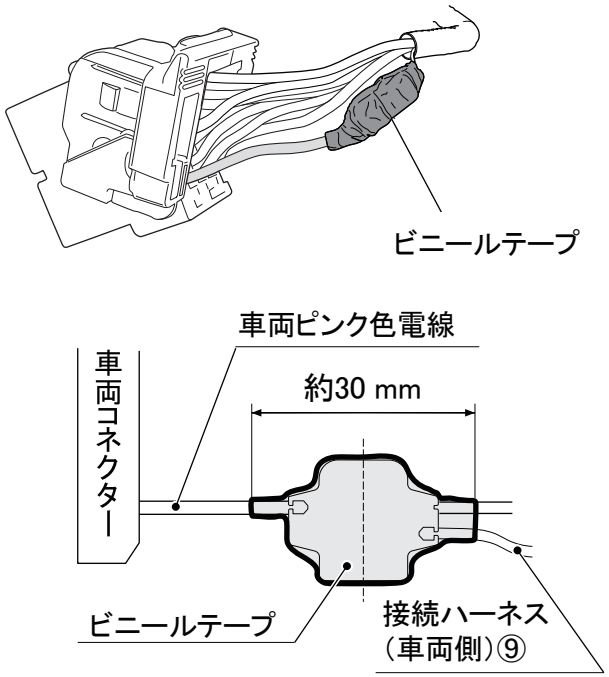
未嵌合状態の場合は、プライヤーで挟み直してください。

図 14



20. エレタップ⑬のヒンジ部（2 箇所）をニッパーで切り取る。

図 15

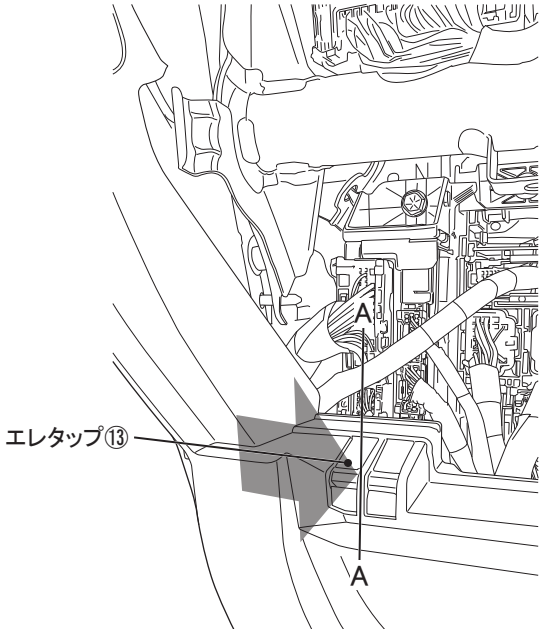


21. エレタップ⑬を中心に「約 30 mm」の範囲にビニールテープを巻き付ける。

22. 車両コネクターを復元する。

> ⚠注意：車両コネクターを復元する際は、コネクターをロックするリテーナーを上げて、ロックされていることを必ず確認してください。

図 16［グローブボックス：ウラ側］



23. グローブボックス嵌合部のリブと干渉がないように、エレタップ⑬の位置を調整する。

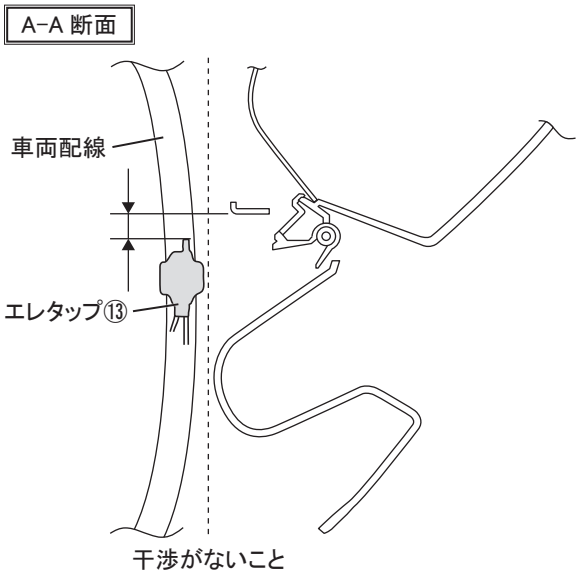
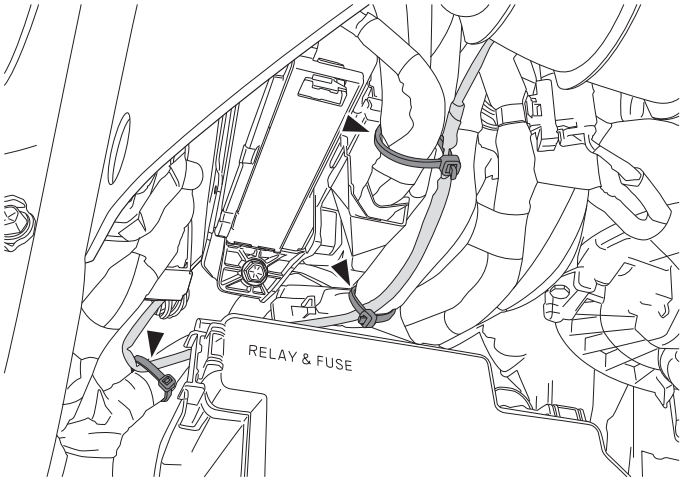
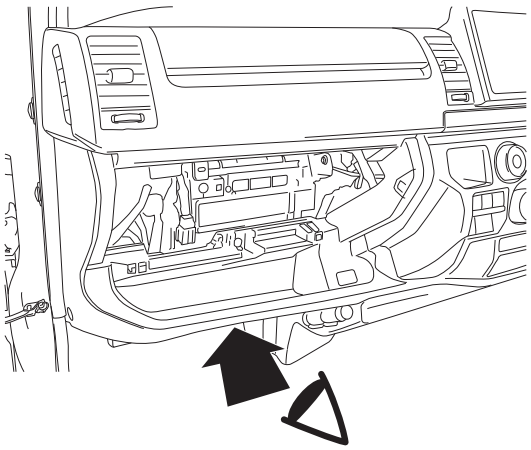


図 17［矢視図］

▼ 結束バンド A ⑩（3 箇所）



［視点］



24. ▼で結束バンド A ⑩ 3 本を使用して、接続ハーネス（車両側）⑨を車両ハーネスに仮固定する。

25. 接続ハーネス（車両側）⑨の余長を調整し結束バンド A ⑩を本締め後、余りをニッパーなどで切り取る（3 箇所）。

アドバイス

・接続ハーネス（車両側）⑨の余長は、車両グロメットより室外側に寄せて調整してください。

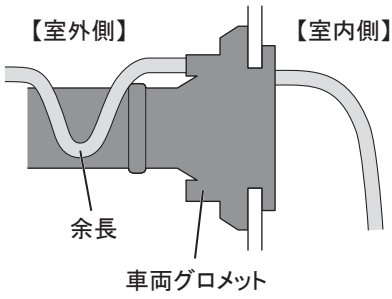
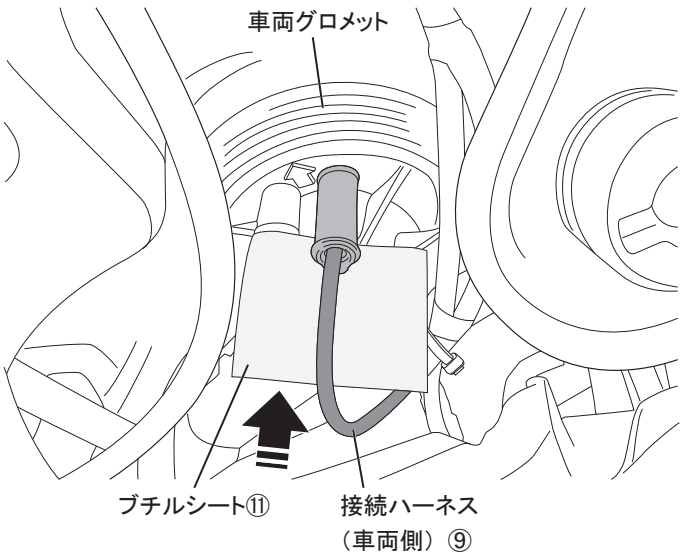
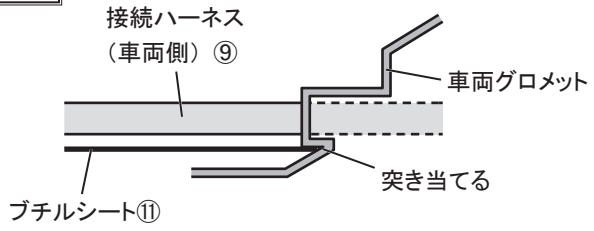


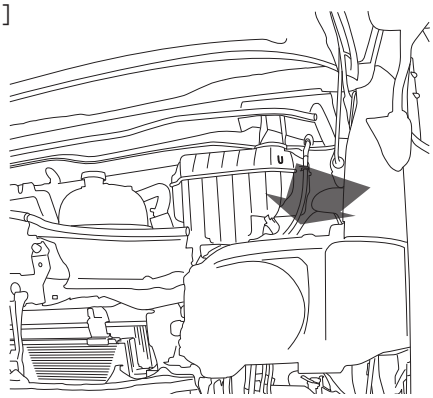
図 18［矢視図］



A–A 断面



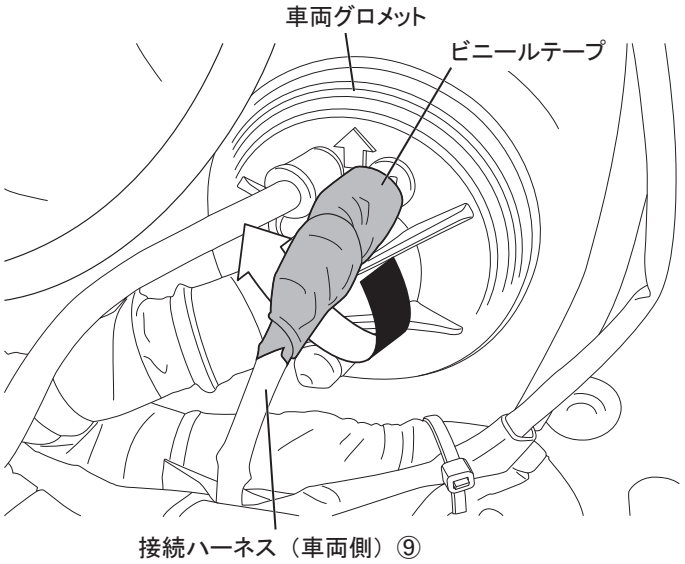
［視点］



26. 車両グロメットの接続ハーネス（車両側）⑨貫通部分にブチルシート⑪を差し込む。

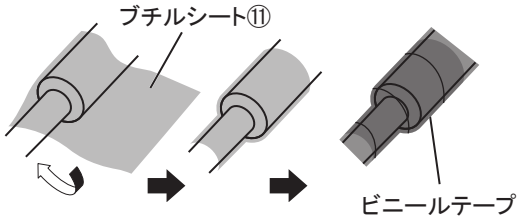
⚠注意：ブチルシート⑪は車両グロメットの凹部に突き当たるよう、しっかりと差し込んでください。差し込みが不十分な場合、防水性が低下するおそれがあります。

図 19



27. 車両グロメットの接続ハーネス（車両側）⑨貫通部分にブチルシート⑪を巻き付けて防水処理をする。

28. ブチルシート⑪の上にビニールテープを巻き付け防水処理を高める。



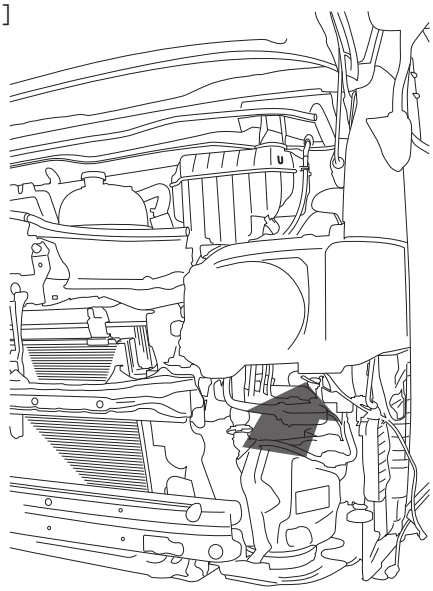
アドバイス

・ビニールテープはブチルシート⑪の両端部を覆うように巻き付けてください。

図 20［矢視図］



［視点］



29. 図 20 の車両アーシングポイントのボルトを取り外し、接続ハーネス（車両側）⑨のアースを共締めし固定する。

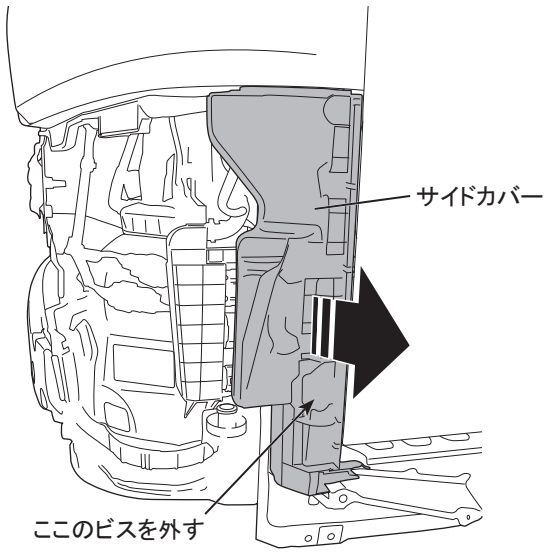
締め付けトルク［ 8.5 N·m ］

⚠注意：配線の取り扱いは十分に注意してください。

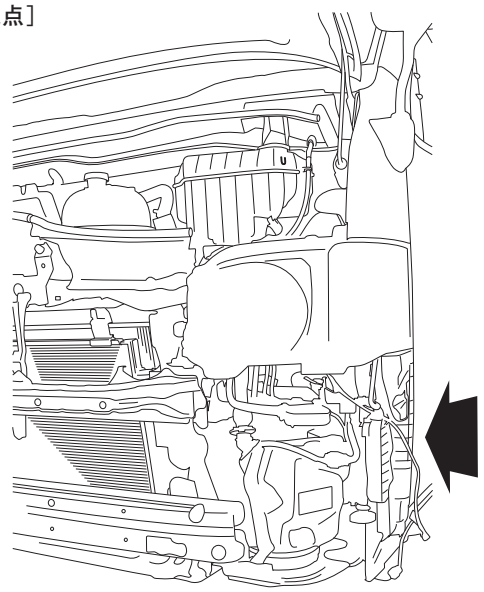
車両ボルトを固定する際、丸型端子の収縮チューブが車両ボルトのフランジにかみ込まれないように注意してください。

車両アース端子のフランジに接続ハーネス（車両側）⑨が重ならないように注意してください。

図 21［矢視図］



［視点］



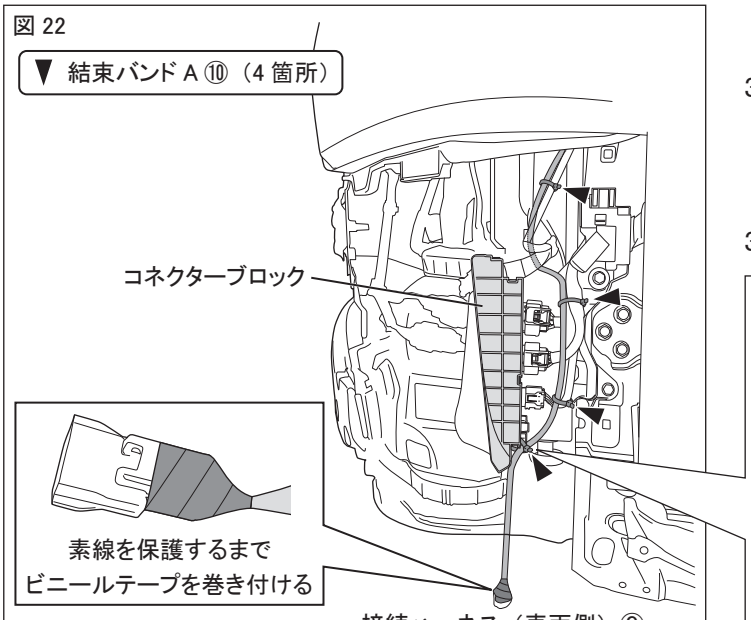
30. 図示部の車両ビスを外し、サイドカバーを取り外す。

> ⚠注意：取り外した部品は復元するため、大切に保管してください。

31. 図を参照し、接続ハーネス（車両側）⑨を車両配線に沿わせ、矢印部を結束バンド A ⑩で束ねて固定し、結束バンド A ⑩の余りをニッパーなどで切り取る（4 箇所）。

32. サイドカバーを戻す。

図 22



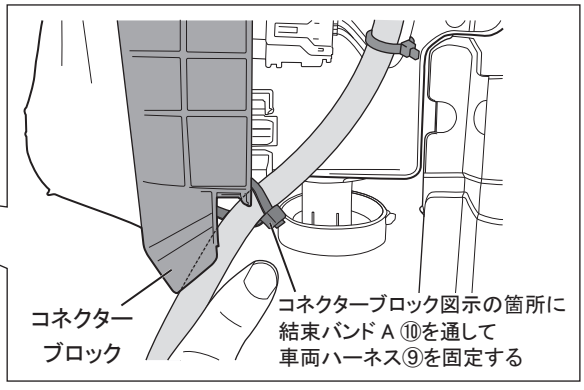
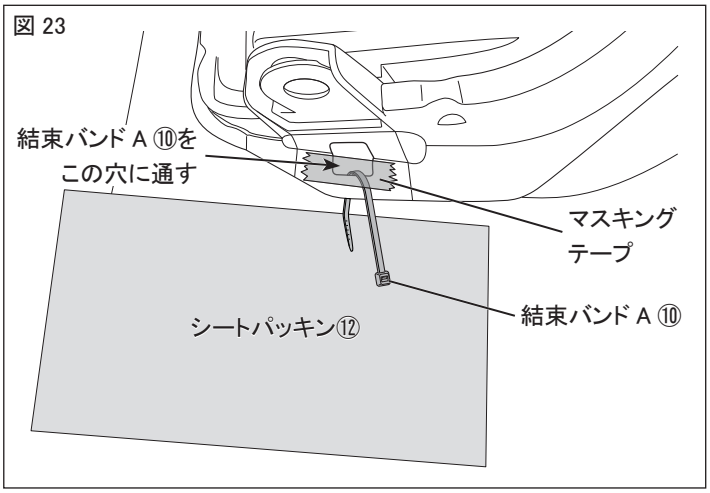


図 23



33. 左図を参照し、接続ハーネス（車両側）⑨のコネクターに素線を保護するまでビニールテープを巻き付ける。

> ⚠注意：配線の取り扱いは十分に注意してください。

34. フロントバンパーをウラ側から見て、フォグカバー下部にある角穴に結束バンド A ⑩を通し、マスキングテープで固定する。

35. シートパッキン⑫を図の位置に貼る。

□LED ランプの点灯確認 ※「シグネチャーイルミブレード」が装着されている場合はここから作業を行う

1. バッテリーのマイナス端子を接続する。
2. 接続ハーネス（車両側）⑨と接続ハーネス（スポイラー側）を仮接続しイグニッション（IG）をオンにした際、フロントスポイラーの LED ランプが正常に点灯すること、また、オフにした際に消灯することを確認する。
3. バッテリーのマイナス端子を外し、接続ハーネス（車両側）⑨と接続ハーネス（スポイラー側）を取り外す。

図 24［フロントバンパー：ウラ側］

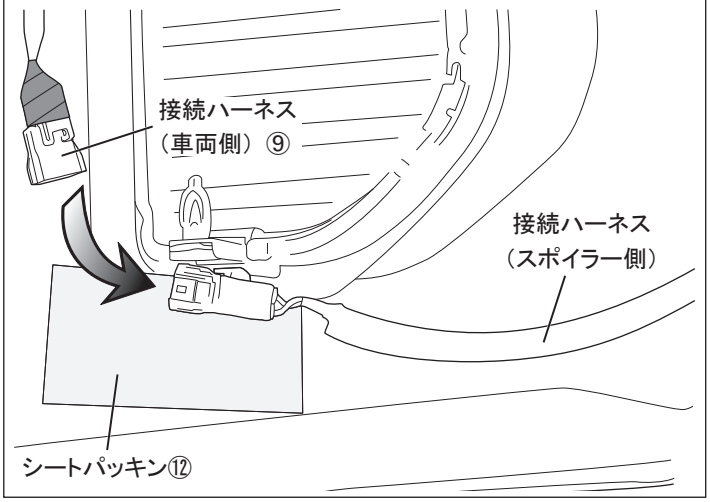


図 25「シグネチャーイルミブレード」同時装着の場合

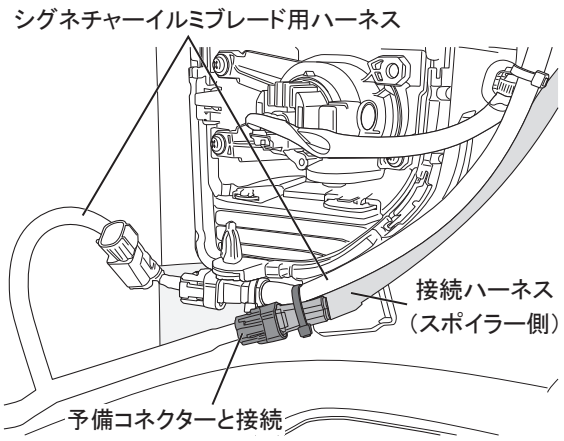
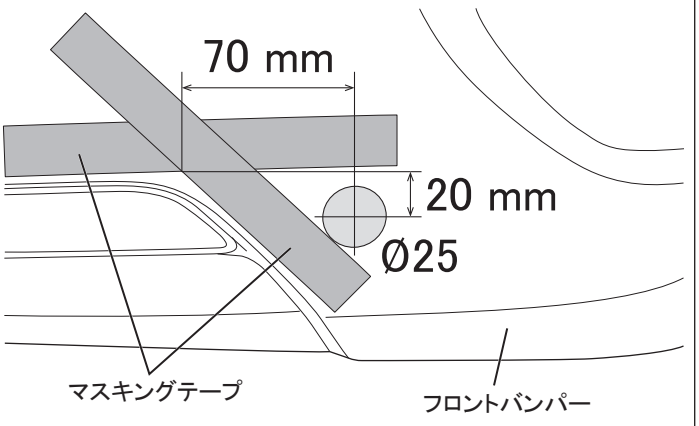
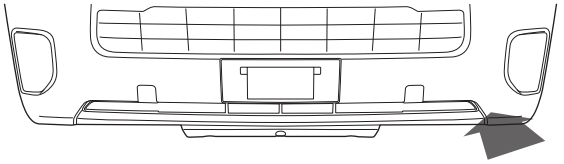


図 26［矢視図］



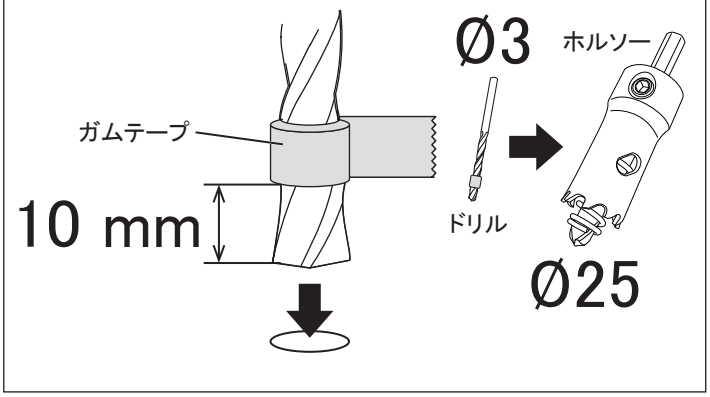
□フロントバンパーの穴あけ加工

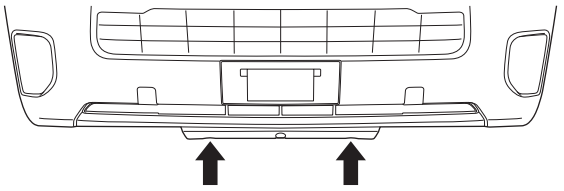
［視点］



1. 図 26［矢視図］を参照し、ダクト部のキャラクターラインに合わせてマスキングテープでマーキングをする。
2. マーキングの交点を基準とし図示の寸法をはかり、穴あけ位置をマーキングする。
3. 図 27 を参照し、Ø 3 のドリル先端にストッパーとして 10 mm の位置にガムテープを巻き付け、Ø 3 のドリルで下穴、Ø 25 のホルソーで本穴をあけバリを取り除く。
4. 車両の修理書（トヨタ自動車㈱発行）に従い、フロントグリルおよびフロントバンパーを戻す。

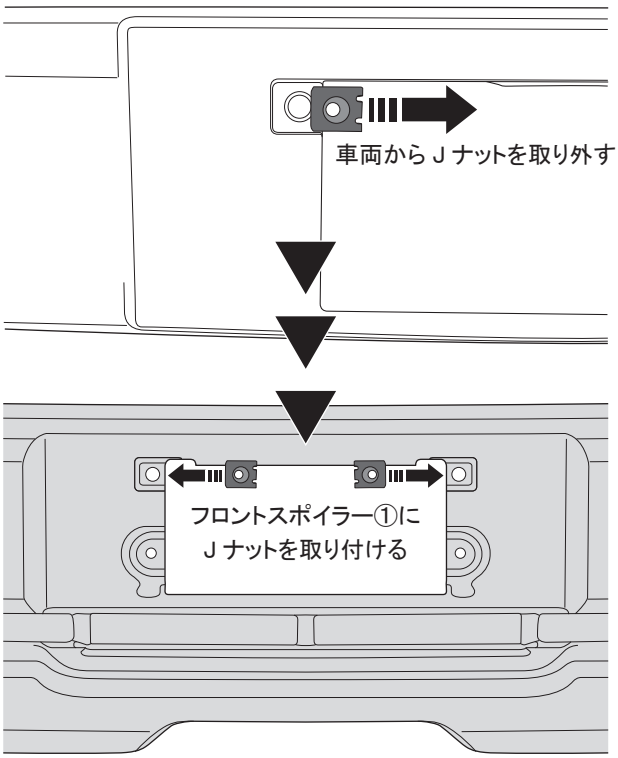
図 27





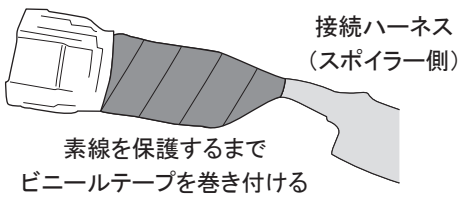
⚠注意：フロントバンパーを戻す際に、上図矢印部（両端）の車両クリップは取り付けないでください。あと作業でブラケットを取り付けます。

図 29



□フロントスポイラーの取り付け

図 28

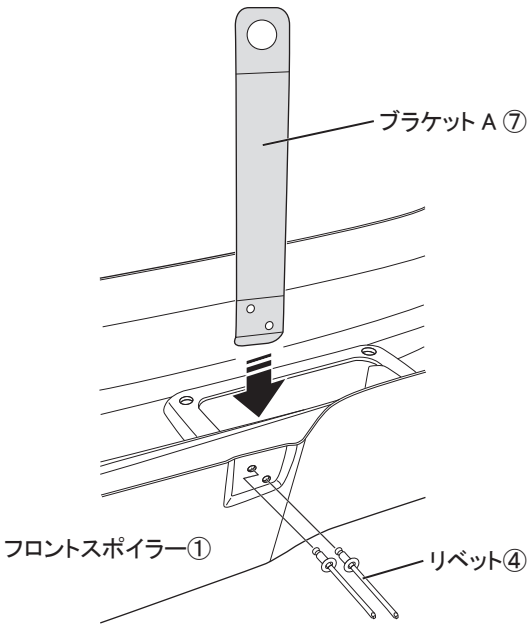


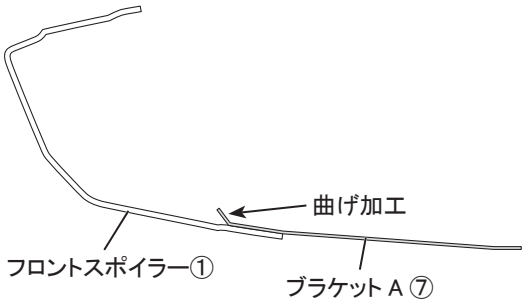
1. 上図 28 を参照し、接続ハーネス（スポイラー側）のコネクターに素線を保護するまでビニールテープを巻き付ける。

> ⚠注意：配線の取り扱いは十分に注意してください。

2. 左図 29 を参照し、フロントバンパーから車両 J ナットを取り外し、フロントスポイラー①の図示部に取り付ける。

図 30［フロントスポイラー：ウラ側］





3. リベット④を使いフロントスポイラー①にブラケット A ⑦を取り付ける。

> ⚠注意：上図を参照し、ブラケット⑦はフロントスポイラー①の上側に取り付けてください（誤った取り付けを防ぐため曲げ加工がされています）

図 31［視点］

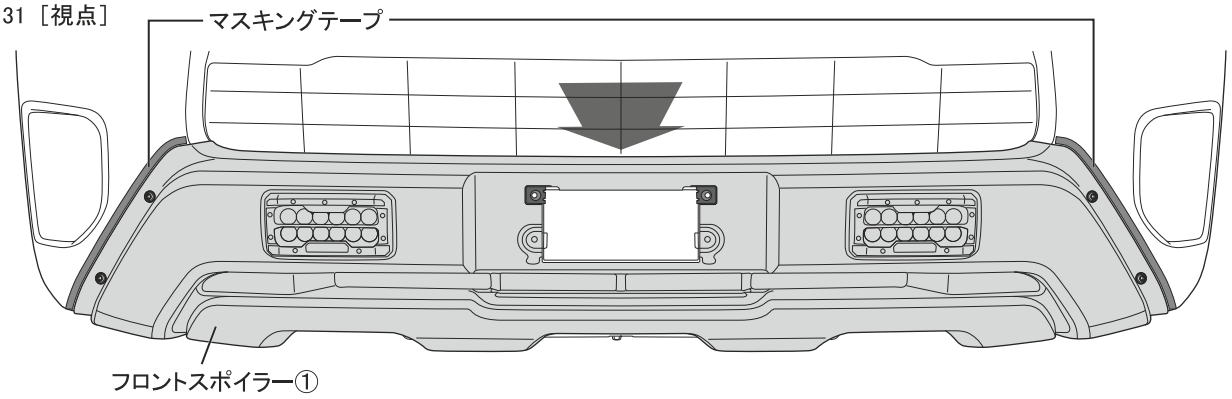


図 32

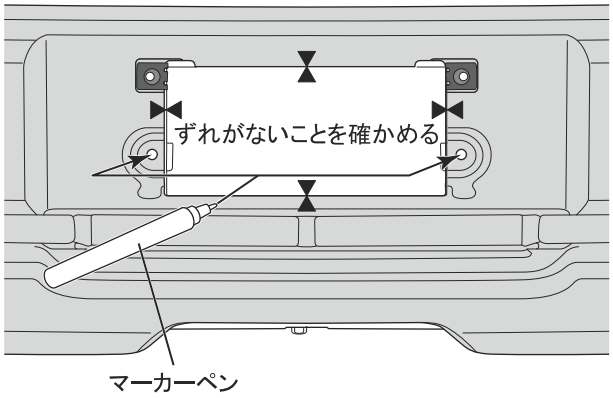


図 33［図 31 矢視図］

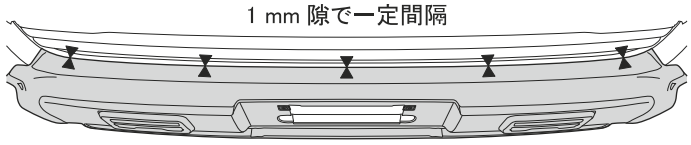
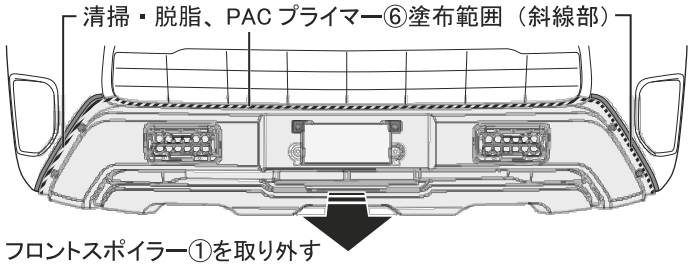


図 34



4. フロントスポイラー①をフロントバンパーにあてがう。
5. 左図 32 を参照し、正面から見てフロントスポイラー①とフロントバンパーがずれなく重なっていることを確かめる。
6. 左図 33 を参照し、フロントスポイラー①とフロントバンパーロアグリルとの隙が「1 mm で一定間隔になっている」ことを確かめる。
7. 図 32 の矢印が示す穴位置（穴の中心）をマーカーペンなどでフロントバンパーにマーキングする。
8. 図 31 を参照し、取り付け位置をマスキングテープでマーキングする（左右同様）。
9. フロントスポイラー①を取り外し両面テープ接着面（斜線部）の汚れを拭き取り、IPA またはホワイトガソリンで一方向に拭いて脱脂する。

⚠注意：脱脂を行う際、上記以外の溶剤は使用しないでください。油分が残り両面テープが剥がれる原因になります。

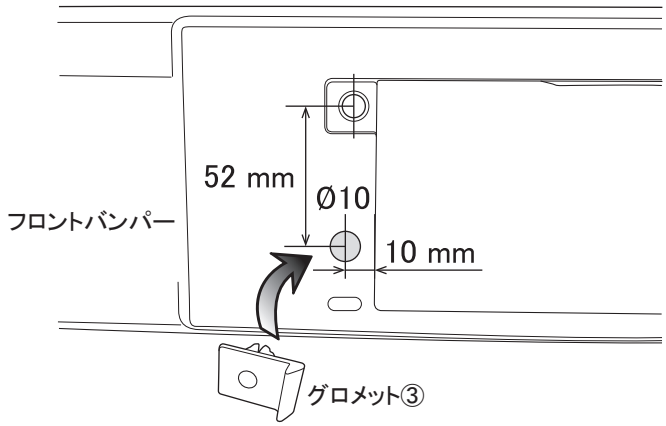
アドバイス
・脱脂後は 10 分以上乾燥させてください。

10. 同じ箇所に PAC プライマー⑥を塗布する。

⚠注意：PAC プライマー⑥は特に白色塗装面を黄変させますので、塗布範囲内の面はマスキングして、はみ出した場合は IPA またはホワイトガソリンで確実に拭き取ってください。
ボディコート処理がされている車両は塗布範囲内をマスキングし、両面テープ接着部を塗装用コンパウンドなどで確実に除去し脱脂を行ってください。

アドバイス
・素地バンパーに取り付ける場合は、別途「3M PAC プライマー K-500」を準備してください。
・PAC プライマー⑥塗布後は、常温で 10 分間以上乾燥させてください。

図 35



11. J ナットを取り外した穴の中心を基準とし図のように寸法をはかり、事前にマーカペンでマーキングしていた位置と合っていることを確かめる。

12. 図 36 を参照し、φ 3 とφ 10 のドリル先端にストッパーとして 10 ㎜の位置にガムテープを巻き付け、φ 3 で下穴、φ 10 で本穴をあけ、バリを取り除く。

13. 加工した穴にグロメット③を取り付ける。

> ⚠注意：穴あけ加工時、ドリルは穴あけ面に対して垂直にし、マーキングの位置からズレないように注意してください。

> ⚠注意：穴あけ作業時は必ず保護メガネを着用してください。

> ⚠注意：バリ取りをする際は穴径が大きくならないように注意し、丸やすりで取り除いてください。

図 36

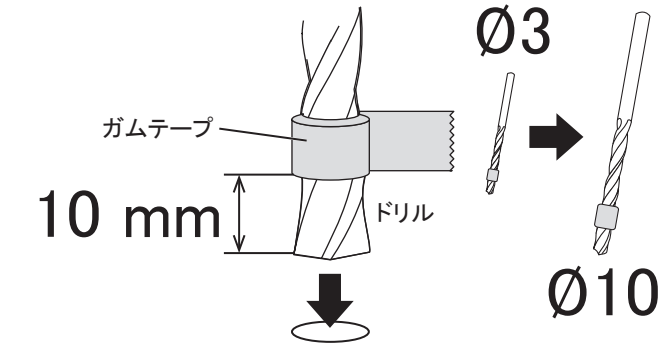
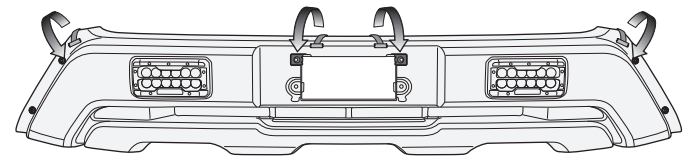


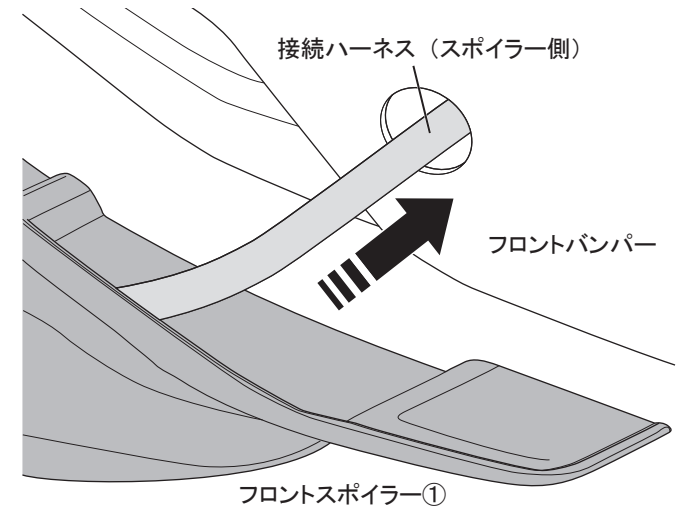
図 37

両面テープ離型フィルムを意匠面（表側）に折り返し
マスキングテープで貼り付ける



14. 図 37 を参照し、フロントスポイラー①ウラ側の両面テープ離型フィルムを矢印の方向に一部はがし、意匠面（表側）に折り返してマスキングテープで貼り付ける。

図 38



15. フロントスポイラー①に組み付けてある接続ハーネス（スポイラー側）を、フロントバンパーにあけた穴に通す。

図 39

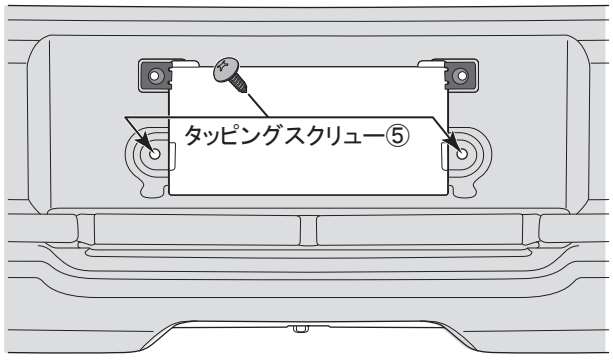


図 41［図 40 矢視図］

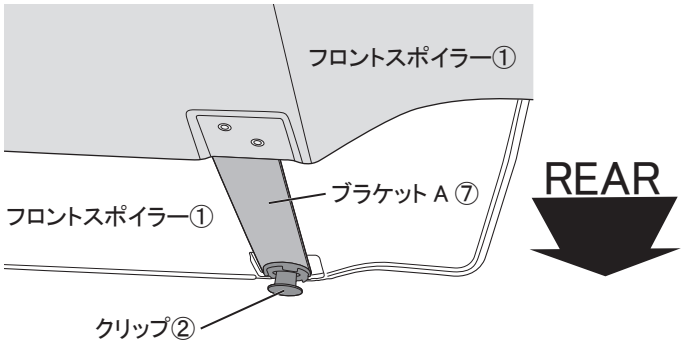


図 42

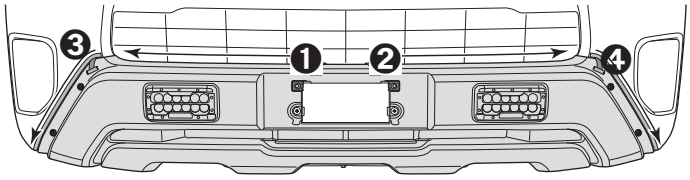


図 40 の拡大図

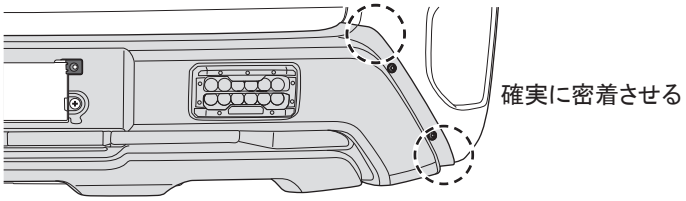


図 43

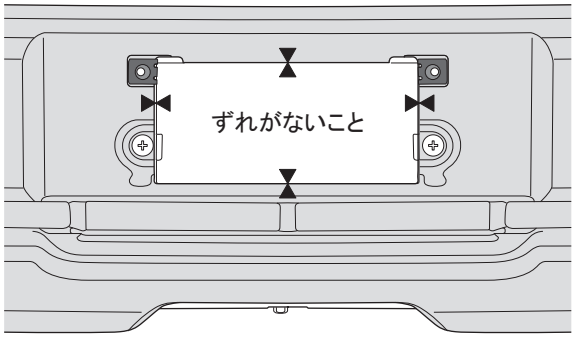
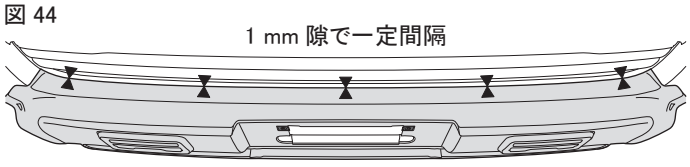


図 44



16. フロントバンパーにフロントスポイラー①をあてがい、グロメット③取り付け箇所をタッピングスクリュー⑤で仮締めする。

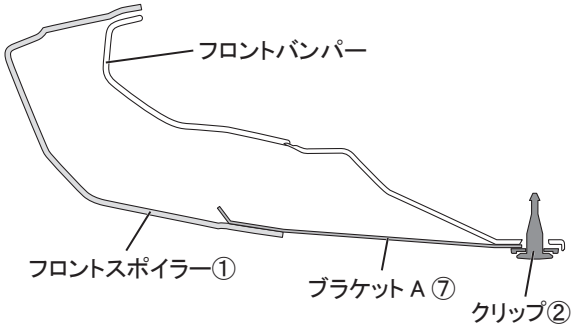
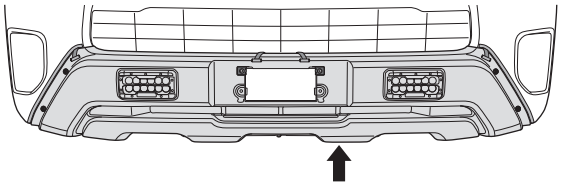


図 40［視点］



17. フロントスポイラー①下部のブラケット A ⑦を、クリップ②でフロントバンパーと共締めする。

18. 上下左右のバランス、隙、穴位置などのずれがないことを確認し、図 42 の順に両面テープ離型フィルムを抜きながら圧着する。

⚠注意：図 40 の拡大図を参照し、破線部は隙がないように位置を合わせて確実に密着させてください。

⚠注意：外気温が 20℃以下の場合、両面テープの接着力が低下するため、テープ面をドライヤーで約 40℃くらい温めてから取り付けてください。

⚠注意：離型フィルムが途中で切れないように注意してください。

⚠注意：両面テープの離型フィルムを図示の順に剥がさなかった場合、隙が生じるおそれがあります。

⚠注意：両面テープの圧着は 49 N (5 kgf) 以上で圧着してください。圧着が不十分な場合、浮き剥がれの原因になります。

⚠注意：両面テープ接着後 24 時間は、洗車をしないでください。

図 46［フロントバンパー：ウラ側］

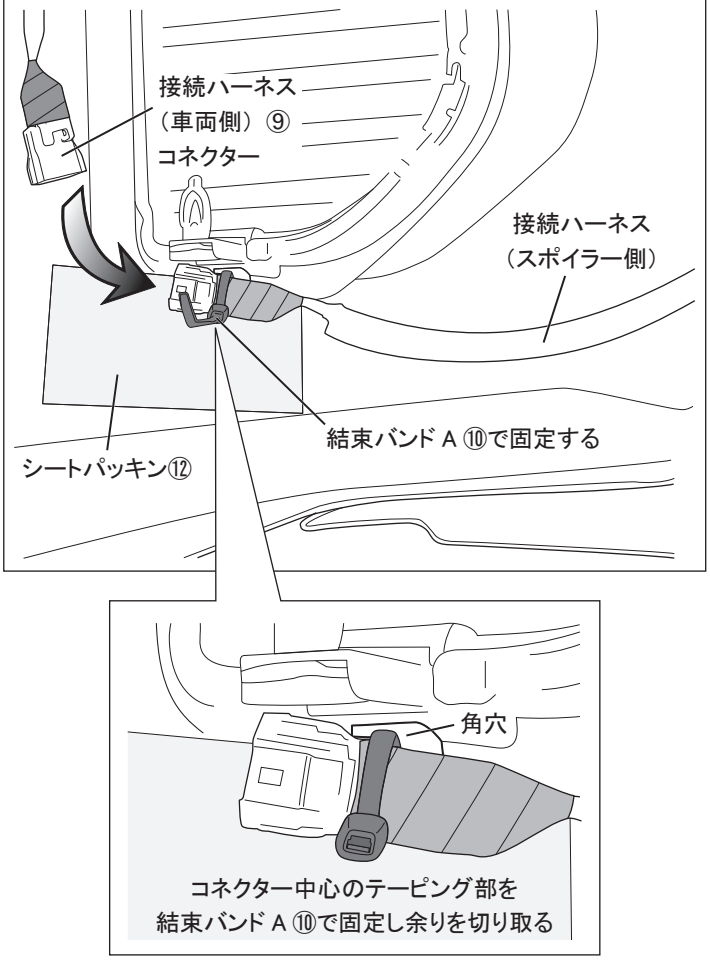
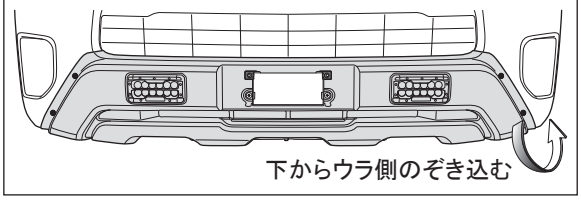
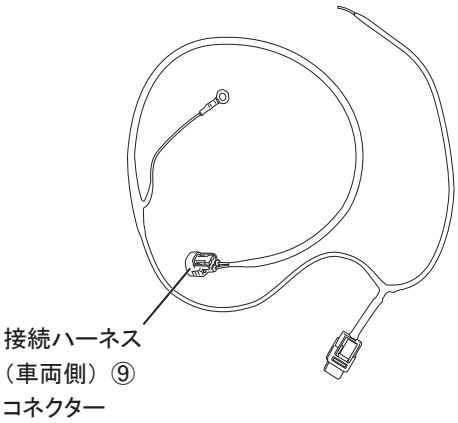


図 45［視点］





19. 図を参照し、フロントスポイラー①を取り付けた状態でフロントバンパーの下からウラ側をのぞき込み、図示の角穴に予め差し込んでおいた結束バンド A ⑩で接続ハーネス（スポイラー側）コネクターを固定し、結束バンド A ⑩の余りをニッパーなどで切り取る。

20. 接続ハーネス（スポイラー側）コネクターと接続ハーネス（車両側）⑨コネクターを接続する。

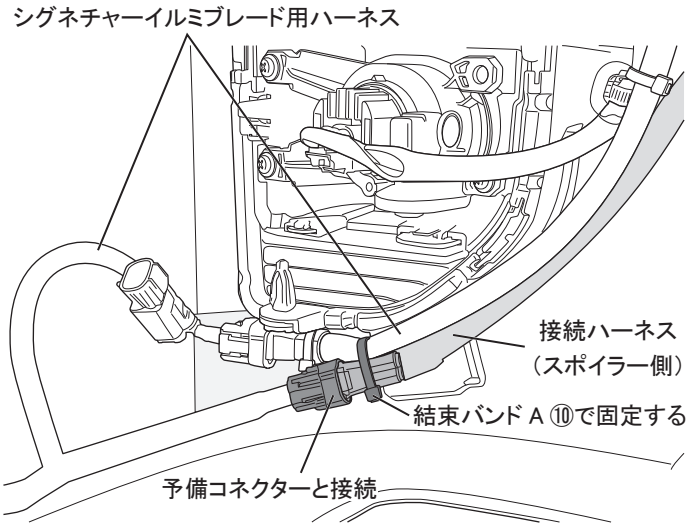
アドバイス

「シグネチャーイルミブレード」同時装着の場合は【図 47】を参照し、シグネチャーイルミブレード用ハーネスの予備コネクターに、接続ハーネス（スポイラー側）のコネクターを接続してください。その後、結束バンド A ⑩を図にようにシグネチャーイルミブレード用のハーネスと共に固定してください。

21. すべてのマスキングテープをはがし、ナンバープレートを車両ボルトで取り付ける。

22. 両面テープ貼り付け後、3 時間以上放置してから仮締め部を本締めする。

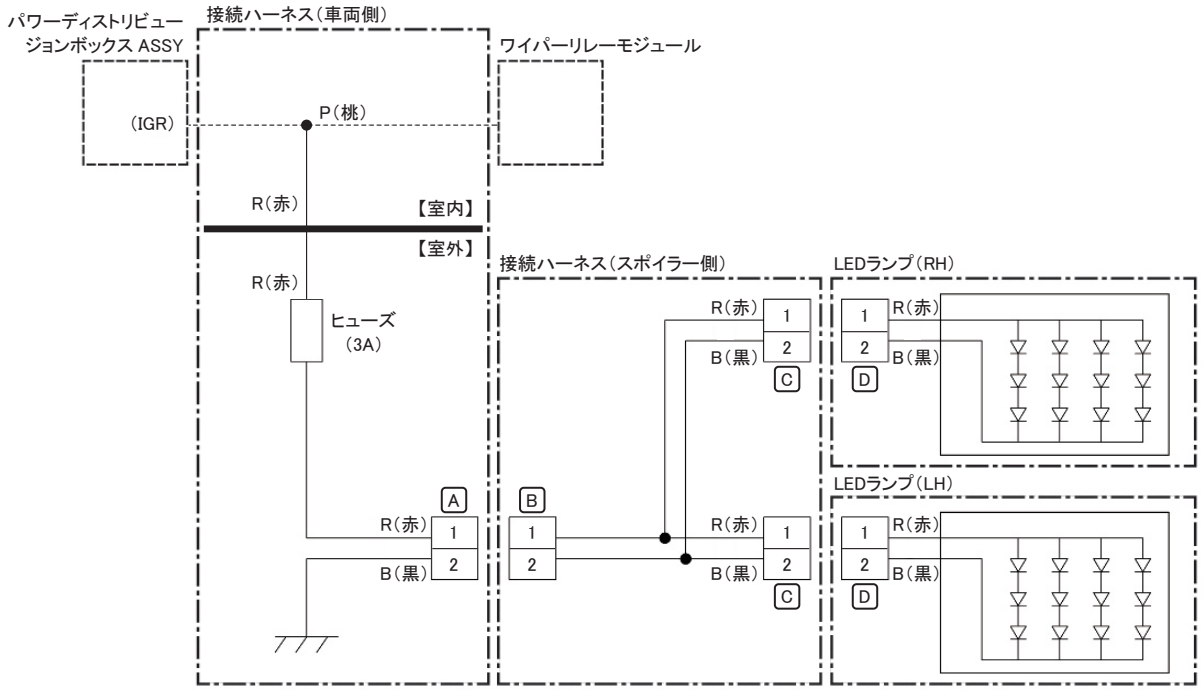
図 47「シグネチャーイルミブレード」同時装着の場合

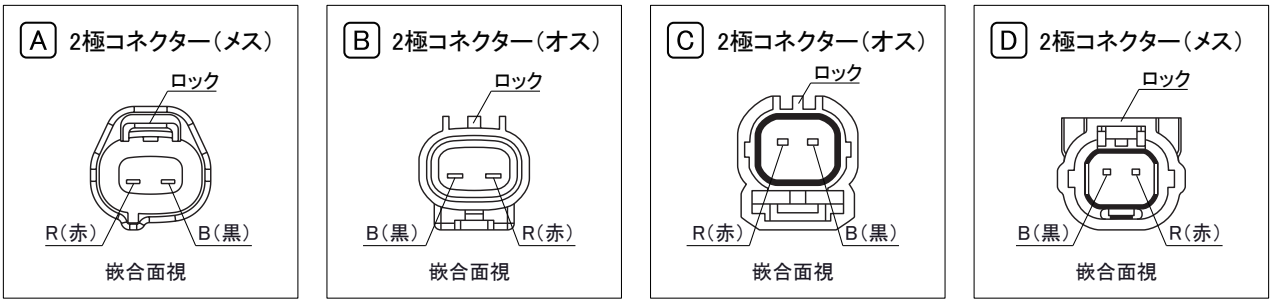


□回路図

図 48

※接続ハーネス (車両側) のヒューズ交換をする際、使用ヒューズは 3A を厳守すること





■取り付け完了後の点検・注意事項

1. フロントスポイラーおよびフロントバンパーが車両へ確実に取り付けられていることを確認してください。
2. 車両および製品まわりにキズが付いていないことを確認してください。
3. 製品全周に浮きやはがれなどがないことを確認してください。
4. ウインドウウォッシャーの作動点検を行ってください。
5. イグニッション ON の状態で LED ランプが正常に点灯することを確認してください。
6. バッテリー復元作業終了後に、車両システムによっては初期化が必要な場合があります。車両修理書を参考に初期化作業を行ってください。※車両システムの初期化は、GTS 等のツールが必要な場合があります。
7. 本取り付けに伴い分解・脱着した部位により、再設定・調整が必要となる場合があります。
8. 該当車両の修理書（トヨタ自動車㈱発行）に従い、各部の点検・調整・設定を行ってください。

株式会社トヨタカスタマイジング＆ディベロップメント
ＴＲＤ商品問い合わせ窓口
TEL：050-3161-2121
https://www.trdparts.jp/

脱脂作業要領書

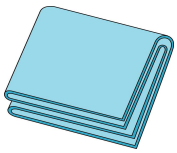
本書ではエアロパーツ等を取付ける際の脱脂作業について記載してあります。
取付け前に必ずお読みいただき、正しい要領で脱脂作業を行ってください。

エアロパーツの取付け・脱脂作業の要領を
解説動画でご覧いただけます。
右のＱＲコードよりアクセスのうえ
ご確認ください。

①エアロ取付準備・脱脂　（約 3 分）
②エアロ位置決め・取付・圧着（約 6 分）
③デカール準備・水貼り・圧着（約 4 分）
合計　約 13 分

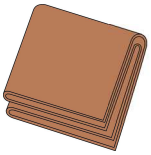
■　取付け時の脱脂作業に必要な工具等


水拭き用バケツ


合成セーム皮


脱脂剤用
スプレーボトル


ゴム手袋


DRY 用
ウエス


WET 用
ウエス


イソプロピルアルコール(IPA)
※純度 100%推奨

■　脱脂作業上の注意事項

1．ホコリ・チリ等のない換気の良い作業場で作業を行ってください
2．隣接する場所で、ワックスがけやポリッシュ作業等は行わないで下さい。
　※飛散した油脂やワックス等の成分が車両に付着してしまいます。
3．脱脂剤を取り扱いの際は、眼・皮膚に触れないように保護具を着用のこと。
4．脱脂剤を取り扱いの際は、作業場に火気・熱源のないことを確認すること。
5．脱脂剤を取り扱いの際は、蒸気を吸い込まないように作業場内の換気に注意のこと。

⚠注　意・・・・注意事項を守らないと事故につながったり、ケガをしたり、車両を損傷する等のおそれがあることを記載しています。

アドバイス・・スピーディーに確実に作業していただく上で、知っておいていただきたいことを記載しています。

★脱脂作業概要《重要》

◎【脱脂作業】とは、取付け面の表面に付着した油脂分を取り除き、両面テープの性能を十分に発揮させるための重要な下地処理です。
下地処理が不十分だと、両面テープの性能が著しく低下して、浮き・ハガレ脱落などの不具合を起こす場合があります。
大変に重要な作業となりますので確実に行ってください。

◎ 脱脂剤は、取付け面に付着した油脂分を浮かび上がらせて、ウエスへの吸着を促す溶剤です。
脱脂剤で取付け面を拭いただけでは、十分な脱脂は行えません。
≪脱脂作業前に≫以降の作業要領を十分に理解したうえで作業を行ってください。

■　脱脂作業前に

- 取付け面のホコリ・チリ等の汚れを十分な流水で洗い流す。
  汚れのひどい場合は、洗浄剤を使用して汚れを落とし、洗浄剤を十分に洗い流すこと。
- 取付け面にコーティング等を施工されている場合は、除去剤・コンパウンド等を使用し除去してください。除去後、十分に水洗いを行ってください。
  ※コーティング剤が残っていると両面テープはハガレます。
- 水洗い後は、取付け面に付いた水滴を完全にふき取ってください。

■　脱脂作業要領

- 取付け面の洗浄を行い、固く絞った合成セーム革等を使用し拭き上げて水滴をしっかりと取り除く。

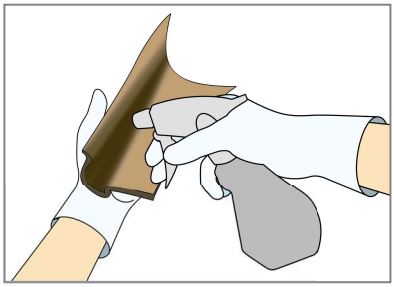

水拭き用バケツ


合成セーム皮

- スプレーボトルに入れた脱脂剤をWET用ウエスに吹きつける。


WET 用ウエス

※　ウエスは清潔なウエスを使用して、拭き上げ時にクズなどが出ない素材を選んでください。

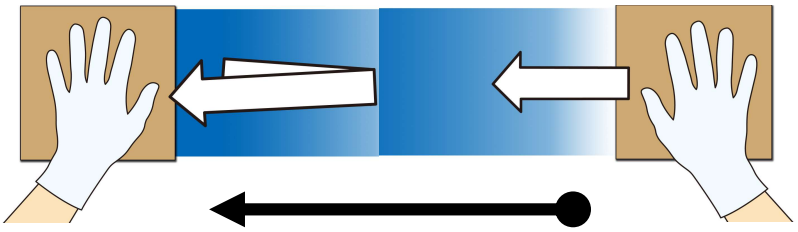


WET 用ウエスにスプレーボトルを５cm ほど離して、初回は１０回程度スプレーをして、ウエスが湿っている状態で取付け面を拭いてください。
以降は WET ウエス表面が乾く前に追加で５回程度スプレーし、常に湿った状態を保つようにしてください。

● 取付け面の脱脂作業を行う

①【WET 拭き】
脱脂剤を含ませたウエスで
１往復で拭き油脂分を浮き上がらせる

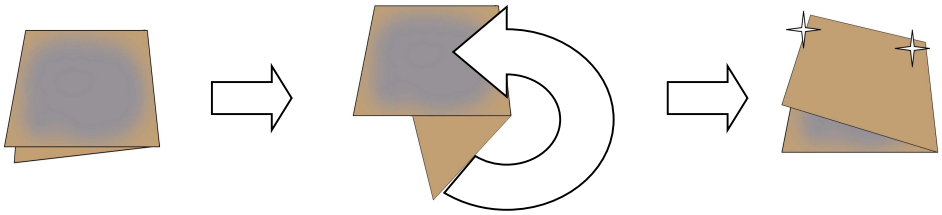
②【DRY 拭き】
DRY 拭きウエスで一方向に
拭き上げ油脂分を取り除く



１ブロック６０ｃｍ程度として両手に WET と DRY のウエスを交互に持ち
WET⇒DRY の順に拭き上げて脱脂する。
範囲が広い場合は１ブロック毎を数回に分けて行い、仕上げに面を通して拭き上げる

WET 拭きのあと脱脂剤が乾かないうちに DRY 拭きで一気に拭き上げを
行ってください。
（上図のように両手にウエスを持ち作業を行うと素早く作業できます。）

DRY 拭き作業後に拭き上げた面に、拭き跡が残っている場合は油脂分が
残っていますので、再度 WET・ DRY 拭きを行ってください。



WET／DRY のウエス共に３～５ブロック毎にウエス表面を折り返し
ウエスの拭き取り面が常に清潔な状態で作業を行ってください。

汚れたままのウエスを使い続けると、ウエスに拭き取った油脂分が取付け面に
再び付着して、エアロパーツの浮き・ハガレの原因となります。

脱脂作業がしっかり行われている取付け面は、DRY 拭きを行った際に
ウエスへの抵抗が増して、拭き上げが重くなります。
作業前と作業後のウエスの抵抗感を目安に、脱脂を行ってください。

脱脂後の取付け面には、指などを触れないように作業を行ってください。

脱脂後は長時間放置せず、すぐに作業を行ってください。

チリ・ホコリ等が付着しないように、十分注意してください。
パーツの取り付け方法は、各パーツの取扱説明書ならびに取付要領書に
したがって行ってください。